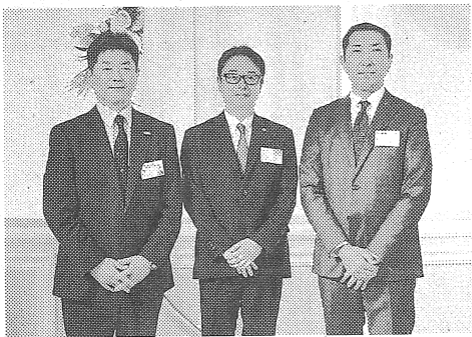


新たな価値創出へ発足

東北6県の建設関連会社で構成する「東北トラスティア事業協同組合」の発足総会が26日、



(左から) 佐藤代表取締役、陰山社長、藤本理事

仙台市内で開かれた。陰山建設など地域建設会社7社と、みずほ銀行が設立した協同出資会社「東北アライアンス建設」(TAC、陰山正弘社長)の協力会社134社が加盟し、施工体制

住環境復興事業協同組合(理事長・佐藤隆郡山塗装代表取締役)を母体としている。今後はTACと連携を図りながら、東北全体へ規模を拡大し、成長を加速させていく。

援に向けたイベントの実施などに取り組む。さらに、TACと広域災害協定を結び、平常時から信頼関係を築きながら、災害対応に当たる方針だ。

が難しい課題を、地域や会社を越え、知識・情報・技術・人材を持ち寄り、東北の建設業の未来をともにつくっていききたい」と決意を語った。

並列型パートナーシップ構築

の高度化や生産性向上などを通じて、建設産業の新たな価値創出に取り組む。代表理事にはNICHUIN(青森市)の藤本宏源代表取締役が就任した。

具体的な事業として、コストダウンを目的とした資材の大量発注やパートナー企業が開発するDX(デジタルトランスフォーメーション)・ITソフトな

席上、藤本代表理事は「トラスティアという社名は、トラスト(信頼)に由来している。建設業は発注者や元請け、協力会社、地域社会からの信頼の連鎖の上に成り立っている。これか

した上で「建設業はまだまだ伸びしろがあり、革新的なことができる。従来の下請けという考えを一新し、同じ目線に立ち、建設業の発展、成長のために頑張っていきたい」と強調した。

同組合は、除染作業など福島

どの安価利用、最新設備のレンタルのほか、人材確保・教育支

らは1社、一地域だけでの解決

た。

県の復興に取り組んだ「福島県

タルのほか、人材確保・教育支

らは1社、一地域だけでの解決

た。